FUJITA HEALTH UNIVERSITY NANAKURI MEMORIAL HOSPITAL GUIDE

〒514-1295 三重県津市大鳥町424番地1
TEL/059-252-1555（代）　FAX/059-252-1383
https://nanakuri.fujita-hu.ac.jp

藤田医科大学 七栗記念病院

2025.04

意欲と笑顔を支える
私たちの
ナナつの
クリエイティブ

七栗には動きを取り戻したい、自分らしい生活に復帰したいという想いに応え、
患者さんの目標を自分の目標として奮闘する医療者がいます。
また、最期までおだやかで自分らしく過ごすことを望まれる
患者さんやご家族のため、全力を尽くす医療者がいます。

生きる喜びは人それぞれ違うからこそ、どの場面にも寄り添える
独創的な医療サポートの数々。それが七栗記念病院 七つのクリエイティブです。
リハビリテーション、緩和ケア、栄養サポート、高齢者医療を軸に
大学病院として蓄積した豊富な知見と
エビデンスに基づいた医療と先端テクノロジーで
入院時から退院後まで、さまざまな角度から
患者さんの生きる喜びを支えています。

1. 意欲まで動き出す
個別に最適なリハビリテーション

2. おだやかな生活へ
自分らしさを尊重する緩和ケア

3. 治療の土台となる食事・栄養も
医療と捉えたチーム体制

4. 大学病院として
確かなエビデンスに基づいた
先進医療を提供・開発

5. 多職種連携のチーム医療で
患者さんを多角的にサポート

6. 急性期病院・在宅・訪問看護・
通所リハビリなど、地域とのつながり

7. 予防医学と地域創生を融合させた
独創性のある社会貢献活動

CONTENTS

はじめに ……01
ご挨拶 ……03
理念・基本方針 ……04
リハビリテーション ……05
緩和ケア ……09
多職種連携 ……11
患者さんの１日の過ごし方 ……13
地域連携 ……15
病院食・嚥下食 ……17
栄養・摂食嚥下サポート ……19
七栗脳ドック ……20
病院概要・アクセス・沿革 ……21

いつも患者さんと
ご家族の思いを胸に

七栗記念病院は皆さんのためにあります。
ここには特色ある医療・介護があります。
「リハビリテーション」と「緩和ケア」です。
ロボットなど先端技術も取り入れた週7日の
質の高い回復期リハビリテーション、
癒し環境・栄養管理も含む包括的アプローチによる
こころとからだに優しい緩和ケアを探求してきました。
そして、これらを支えるチーム医療は私たちの得意とするところです。
訪問事業などを通じて地域とのつながりも深化させています。
七栗記念病院は歩みを止めません。
皆さんと誠実に向きあい、
より効果的な医療・介護を求め前進します。

病院長　大高　洋平
リハビリテーション医学講座主任教授

副院長　臼井　正信
外科・緩和医療学講座主任教授

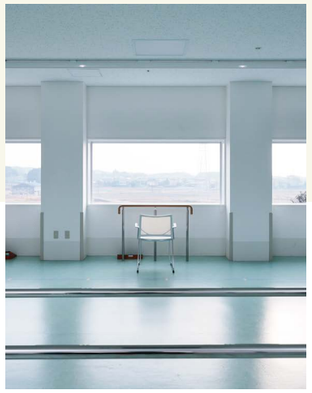
副院長　平野　哲
リハビリテーション医学講座教授

理　念

我ら、弱き人々への無限の同情心もて、
片時も自己に驕ることなく医を行わん。

基本方針

- 科学性と専門性の高い独創的なリハビリテーション、緩和ケア、栄養サポート、高齢者医療を追求することで、地域に貢献します。
- 患者さん・ご家族のお話を聴き、十分説明を行い、同意を頂いて医療を行います。
- 患者さんの医療への参加を促し、医療安全の向上に努めます。
- 医療従事者間の情報共有を適切に行い、チーム医療を有効に機能させます。



Rehabilitation Medicine

リハビリテーション

“毎日頑張れるのは ひとりじゃないから” 心も動き出す、病棟まるごと リハビリテーション空間

大学病院としては日本でトップクラスの回復期リハビリテーションを有し、
リハビリテーション医学講座所属の指導医・専門医が多数在籍、
医療のさらなる向上をめざした研究、開発もおこなっています。
同じ病気、怪我でも身体機能の障害の程度や、もともとの骨格、筋肉の量などは個人差があるため、
新たな動きを学習する最適な方法はひとそれぞれで、患者さんの数だけリハビリ方法があると言えます。
「こんなリハビリ環境はじめて見た！」と驚かれる当院のリハビリ病棟には、
患者さんが自発的に動きたくなる工夫が随所にちりばめられています。

一日も早い回復と社会復帰をめざす「FIT program」を開発

私たちは独自に考案した、統合的高密度リハビリテーション病棟システム「FIT program」を実践しています。病棟を丸ごと使ってリハビリできるシステムで、脳卒中や外傷など、さまざまな疾病からの回復を目標に患者さん個々の状態に合わせ週7日間、緻密で集中的なリハビリテーション治療をおこないます。厳しい訓練ではなく、自然な動き方を身に付けるための科学的な練習方法です。

患者さん同士からリハビリ同志へ みんなが集う大廊下練習室

病棟のシンボルともいえる縦50m、幅6mの大廊下もリハビリの練習室です。歩行リハビリや自主トレをしたり、患者さん同士で語らったりできる空間となっています。縦の距離には1mごとに印が打たれ、自分が何m歩いたか一目で分かり練習の励みになります。病室を出ると目の前に大廊下が広がっているので、他の患者さんの姿に刺激を受けてリハビリを始める方もいらっしゃいます。患者さんが自発的に動きたくなる、そんなポジティブな空気が流れています。

SPECIALIST VOICE

医師

医師だけでなく療法士、看護師、介護福祉士など多職種が連携して、病棟生活がリハビリの延長となるように工夫しています。院内の歯科が嚥下リハビリを支援してくれるのも特徴です。データを多角的に分析、最適なリハビリプログラムを作成の上、ロボットなどの先端技術を使い早期に最大限の回復を図れるのは大学病院の強みです。住宅改修や運転再開など退院までの個別の課題もサポートしています。

動ける喜びを、より確かなものに
独創的なリハビリテーション

当病棟には先進のリハビリ設備が整っています。理学療法士や作業療法士のサポートのもと、科学的なエビデンスに基づいたマシンや機器を使うことで、患者さんの個別性に対応した正確で適切な練習ができます。またゲーム感覚や成果の見える練習も取り入れられているので、楽しみながら毎日続けていただけます。

どんな動きもリハビリに!
早期の社会復帰をめざして

入院中は一日中患者衣(パジャマ)で過ごすイメージがありますが、当病棟の入院生活は社会復帰の準備期間と捉え、起床後はリハビリ用衣服に着替え、食事も病室ではなく食堂を利用いただいています。寝食分離することで1日にリズムが生まれ、日常生活活動もリハビリにできます。また看護師を中心としたスタッフが着替えや食事の様子を確認しサポートすることで、安全面の評価やリハビリの改善点を見つけることにもつながっています。

頑張りを支え寄り添う
160名を超すスペシャリスト

リハビリテーション部門は医療スタッフも充実しています。リハビリテーション科専門医、回復期セラピストマネージャーや回復期リハビリテーション看護師が在籍。さらに理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、摂食・嚥下障害看護認定看護師、NST専門療法士など専門職がきめ細やかなサポート体制を維持しています。多くのスタッフが大学の教員、研究者のため医学的、科学的に精度の高い治療を提供いたします。

安全な自動車運転をめざして
運転再開支援

社会復帰や生活範囲を拡大するにあたり、自動車運転は重要な手段となります。運転は、「認知→判断→動作」が連続する難易度の高い行為です。当院では、入院・外来の患者さんを対象に運転再開に向けた検査・機能回復練習・相談・助言をおこなっています。また、教習所等で運転実車評価をおこなう場合もあります。

歩行練習(ウェルウォーク)
トヨタ自動車と共同開発したマシン。重度麻痺の方でも早い時期から歩行練習がおこなえることで、より早い歩行能力の改善が期待できます。

安全懸架装置
歩く練習中に転んでも支えてくれる装置です。安全な状況で転倒を経験することで転ばず安全な歩行を身に付けます。

摂食嚥下機能練習

食べる・飲み込む機能に対して、電気刺激や磁気刺激などの機器を併用しながら、より効果的な練習をおこないます。

高次脳機能練習

脳の損傷等により、言語や記憶、判断、情動などの、見た目ではわかりにくい脳機能の障害を評価し、症状に応じた練習へつなげます。

三次元歩行分析

6台のカメラで歩行を撮影します。歩行を数値化することで、問題点の理解や治療効果が明確になります。

ドライブシミュレーター

運転再開支援の一つとして、実車による運転前にシミュレーターを用いた運転体験および習熟練習を実施しています。

自分らしい大切な日々を過ごすために緩和ケアはあります

緩和ケアは終末期の医療ではなく、
がんと診断された時から始まる、患者さんの身体的、
精神的な苦痛を和らげる医療です。
私たちは全国ではじめて大学病院として
緩和ケア病棟を開設しました。
患者さんやご家族が望む「自分らしい生き方」を
尊重しながら、がんによる痛みや
生活や未来への不安といった心の痛みも和らげ
自分らしく過ごしていただけるように支えます。
どんな些細なことでも、
いつでも私たちにご相談ください。

Palliative Care

緩和ケア

すべては患者さんの笑顔のために～私たちの緩和ケア～

当院では、無理な延命治療や痛みを伴う治療はおこなわず、患者さんが抱える不快な症状（痛み、倦怠感、息苦しさなど）を緩和して、生活の質（QOL）の維持・向上をめざしています。多職種のプロフェッショナル※を中心に、患者さん一人ひとりに真摯に向き合い、笑顔で過ごしていただけるよう努めています。

※日本緩和医療学会専門医・指導医の医師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師など

我慢しないで症状コントロールは可能です

緩和ケアでは不快な症状を和らげることを第一に考えています。それぞれの症状にあった適切な治療、ケアがあります。当院では身体的負担が少ない腹水濾過濃縮再静注法などもおこなっています。つらい症状がある時は、無理せず、我慢せず、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

適切な栄養管理でからだもこころも前向きに

すべての治療、ケアの根幹となるのが栄養管理（栄養サポートチーム:NST）です。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など多職種がチーム一丸となり、患者さん一人ひとりの全身状態に合わせた栄養管理をおこない、口から食べることをサポートしています。食事内容はできる限り患者さんの希望を取り入れています。

自分らしくあるために～病棟でできること～

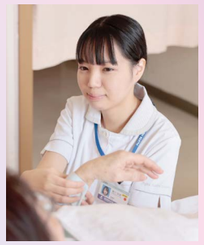
ご家族と一緒に料理や食事を楽しむ	ペットとのふれあい	院内のリハビリ施設や温泉の利用	お買い物やコンサートへおでかけ【外出・外泊】	自宅に帰れる【在宅移行】

ちょっとした日々の習慣も、入院すると諦めざるを得ないと思われるのではないでしょうか。当院の緩和ケア病棟は、全室個室で24時間ご家族の付き添いが可能です。ご自宅で過ごすように、自分らしい時間を過ごしていただけます。また、病棟の中庭で四季折々の草花を愛でたり、コミュニティードームではお茶会やイベントも楽しんでいただけます。患者さんがおだやかに過ごせるよう、できる限りの対応をしています。好きな事ができる、それは心の栄養になります。

SPECIALIST VOICE

看護師

がんと向き合う患者さんとご家族は、症状の変化などによって精神的に不安定になることもあります。その時々の思いに耳を傾け、少しでも穏やかな気持ちで過ごしていただけるように専門職が連携して寄り添い、七栗に来てよかった、と思っていただけるケアをめざしています。



患者さんの未来を照らす
希望になるために
多職種によるチーム医療

すべての患者さんが安心できる医療をお届けするため、各専門分野の知識とスキルを持つ
医療者たちが密に連携を取り、ディスカッションを積極的におこなう多職種連携を大切にしています。

Multi
Professional
Team Approach

多職種連携

多職種連携の強み

各種専門職が回復期リハビリテーション、緩和ケア、栄養サポートチームを隔てず横断的に連携して患者さんの全身状態を把握します。例えば、機能の回復が進まない場合、その原因がリハビリ方法にあるのか、臓器の問題なのか、栄養不足なのか、薬が合っていないのか、精神的な悩みがあるのか、などさまざまな可能性がありえます。多職種で問題を共有し検討することで、早期に適切なケアをおこなうことができます。

患者さんの回復だけをめざすのではなく、
その先にある社会復帰、
生活の質の向上まで意識した
チーム医療に努めています

内科医師

入院中の患者さんのベッドサイドにて
主に内科的合併症治療を担う

歯科医師・歯科衛生士

義歯や抜歯など一般的治療の他、
専門的口腔ケアや摂食嚥下評価を
担う

薬剤師

疾患に応じた薬剤や輸液の処方提案、
有効かつ安全性を考えた薬物治療の
調剤を担う

医療ソーシャルワーカー

患者さんやご家族が抱える問題の相談に
乗り、入院中や退院後も安心して生活
できるよう支援を担う

臨床検査技師

血液検査や生理検査など、診断や
治療に必要なさまざまな検査を担う

診療放射線技師

X線やCT検査、放射線を使わない
MRI検査も扱い、診断に欠かせない
画像検査を担う

介護福祉士

入院中、日常生活に困難がある患者さんの
身辺の介護や精神上のケア、健康支援を
担う

SPECIALIST VOICE

薬剤師

健康状態が良いと、薬物による治療やリハビリ治療も順調に進むため、多職種連携の情報共有は重要だと感じています。リハビリ中の患者さんには、副作用による転倒の危険が低くなるよう安全な薬に変えたり、緩和ケアの患者さんなら代謝栄養を駆使して症状緩和をめざします。薬が治療を妨げることなく回復に導けるよう、チーム全員で協力し多面的なケアを考えています。

“たとえばリハビリテーション科に入院したら”患者さんの1日の過ごし方

DAILY SCHEDULE

リハビリ病棟での入院を例に、1日の流れをご紹介します。
入院生活にメリハリを持ち、リラックスして治療にのぞめるよう
設備や環境面からも患者さんの心身をサポートしています。

院内の散歩も、立ち話もリハビリになる

たとえば飲み物を買いに院内を歩けば歩行リハビリに。看護師や顔なじみの患者さんとのおしゃべりも、喉や舌の嚥下リハビリになります。ちょっとした行動も回復につながります。積極的に動きましょう。

定期的な医師面談

患者さんやご家族の意向に寄り沿って目標を定め、回復の経過や練習内容を説明します。退院後の生活の見通しを具体化させ、自宅の改修やサービス内容を一緒に考えます。

作業療法（Occupational Therapy）

個人にとって価値や目的のある作業活動を通して、応用動作、認知機能の改善を図り、生活行為として社会・地域生活に適応できるように支援します。

WAKE UP — 08:00 — 09:00 — 10:00 — 12:00 — 13:00 — 15:00 — GO TO BED

理学療法（Physical Therapy）

運動療法、物理療法を治療手段とし、筋力や柔軟性などの身体機能や歩行などの基本動作能力の改善を図ります。

評判の病院食でエネルギーチャージ

「美味しくなければ栄養にならない!」をモットーにお一人おひとりの体調に合わせた食事を提供しています。

言語聴覚療法（Speech Therapy）

「話す」「食べる」「考える」など人にとって大切な活動に対する練習をおこない、生活の質の向上を支援します。

リハビリの後は のんびり院内温泉へ

敷地内には、強アルカリ泉で美肌の湯として知られる榊原温泉の湯元(源泉)があり、入院患者さんやデイケアの利用者さんは大浴場で温泉を堪能することができます。浴場や脱衣所は広く、スタッフと共に着替えや入浴の練習もおこなえます。また、介護が必要な患者さんでも安全に入浴していただけるよう専用の設備も備えています。

痛みや不快感を改善 鍼灸室

つらい痛みの緩和の一助として開院以来、伝統的な東洋医学である鍼灸を取り入れています。鍼やお灸が苦手な方には電気治療器を使用し、同様の効果を得られる治療をしています。

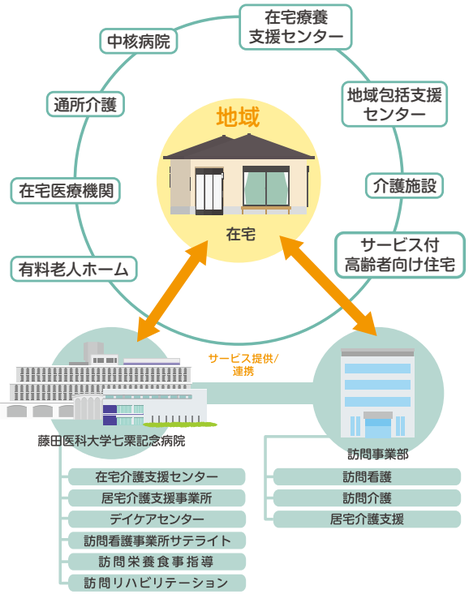
静かな環境で リラックスして就寝

病棟では季節を五感で感じられます。草木や花々の移ろいはもちろん、夜には美しい星空、夏にはホタル、秋には虫の音、時には野生の鹿やタヌキを見つけたり自然に囲まれた環境ならではの癒しや安らぎがあります。

生き方、暮らし方を
尊重する医療ケアを
地域と共に

退院後、治療後に患者さんが住み慣れたご自宅で「自分らしい生活」を取り戻せるよう、在宅での医療ケア・支援も充実しています。地域連携部（医療福祉相談課・入退院支援課）では介護や福祉に関するご相談や地域の医療機関へのご紹介など、患者さんが必要とされている医療、福祉、介護が受けられるよう対応しています。

病院で経験を積んだ医療者が在籍する訪問事業部は、「大学病院の医療レベルを地域へ、ご自宅へ」との思いで活動し、地域の医療機関に信頼をいただいています。今後もさらに急性期病院やクリニック、医療機関と連携を深め、地域の皆さんの健康の底上げをめざしていきます。



訪問看護ななくり

当院や専門医療機関での多くの臨床経験と専門知識を持った看護師やリハビリの専門家である理学療法士、作業療法士などが在籍しています。がん、認知症、脳卒中、難病などさまざまな病に対応可能で、利用者さんやご家族のご希望に合わせたきめ細やかな在宅療養支援をしています。七栗記念病院に入院や通院されていなくてもご利用いただけます。

訪問看護

健康管理、医療機器の管理、床ずれ予防やキズの処置、入浴・清拭・口腔ケア、看取り、お薬の確認・指導、療養相談、ご家族への支援など。

訪問リハビリテーション

日常生活活動練習、趣味活動への支援、機能の回復練習、呼吸リハビリテーション、摂食嚥下訓練・指導、住宅環境調整、認知症への支援。

訪問介護ななくり

利用者さんが、住み慣れたご自宅で暮らし続けることができるよう、生活に必要な介護サービスを提供し、利用者さんの病気や障がいの程度に合わせた支援を専門スタッフがおこないます。併設する訪問看護や居宅介護支援事業所と連携を図り、常により良い支援を提供できることをめざしています。

居宅介護支援ななくり

併設する訪問看護事業所や訪問介護事業所と連携し、がんや認知症、看取りなどさまざまな支援をおこなっています。ケアマネジャーは医療職で得た経験を活かし、適切な介護サービスを受けられるよう介護保険の申請代行やケアプランを作成、介護サービスのアフターフォローまで丁寧にサポートしています。

訪問栄養食事指導

ご自宅でも適切な体調管理ができるよう、主治医の指示により、必要な食事・栄養について支援をおこないます。病気による食事のコントロールが必要な方、食べ物の飲み込みが難しい方など利用者さんに合わせた食事の工夫や、日頃の食事の悩み相談など管理栄養士が責任をもっておこないます。

通所リハビリテーション（通称：デイケア）

退院後、在宅で過ごしている方の生活機能の維持向上を目的として、リハビリや体操、食事、入浴（温泉）、レクリエーションなどして過ごせる施設です。介護保険による通所リハビリテーションです。また他のデイケアではないウェルウォーク等のロボットを活用した歩行練習ができます。

地域活動

学んでみたい、聴きたいテーマに各分野の医療スタッフを講師として派遣し、健康チェックや健康相談をおこなっています。また情報を正しく理解・活用していただくため医療・福祉の専門職に向けた各種セミナーを実施しています。

食事も治療のひとつ だから美味しさにこだわります

入院中に食べていただく食事――。病院食や嚥下食は、医師の指示のもと管理栄養士や調理師がお一人おひとりの病状や体調に合わせ作っています。病院の食事と聞くと味がうすい、見た目が良くないといったイメージが強いかと思いますが、私たちは「美味しくなければ栄養にならない!」をモットーに、日々さまざまな工夫をしています。

味わい豊かな食事、食べやすい食事は気持ちが前向きになり箸が進みます。食事が美味しく食べられればそれだけ栄養がしっかりとれますし体力も付きます。また残さず食べられると達成感が生まれるなど、美味しさは心と身体の健康維持に深くつながっているのです。

NANAKURI NO KODAWARI

ななくりのこだわり

えらべる朝食

患者さんご自身で日々の食事に変化をつけられるよう、選択メニューを実施しています。週3回、朝食は基本献立（ご飯食）かパン食のいずれかを選べます。また夕食でもパスタやちらし寿司等が選べる日を設けています。

うれしい行事食

食事に楽しさをお届けできるよう、お正月や桃の節句、お月見など季節や風習、伝統にちなんだ行事食をお出ししています。彩りや盛り付けにも工夫し、食事で四季折々の変化を感じてもらえる献立をめざしています。

地域に広がる嚥下食

食事に制約がある方でも食事が楽しめる場を増やしたい、との思いから榊原温泉の温浴施設等で、当院監修の嚥下食を召し上がっていただけます。

七栗病院食の美味しさが認められました

学会主催の「患者さんのための見た目にも美しい病院食コンテスト」にて複数回の受賞をしています。今後も、患者さんに安全で美味しく喜んでいただける病院食づくりをめざしていきます。

お家で作れる病院食・嚥下食レシピの発信はじめました

患者さんやそのご家族から〝七栗の食事カードを参考にして作っている、〝どんな作り方が良いのか悩む〟というお声をいただくことがありました。そこで管理栄養士がご家庭で作りやすく調整した病院食・嚥下食レシピを考案し、「ななくり食堂CAM-NOM（カムノム）」と名付け発信しています。健康的なレシピを世代を問わず多くの方に親しんでいただけるようSNSでも展開していきます。皆さんぜひご活用ください。

NANAKURI SYOKUDO
ななくり食堂
CAM-NOM

すごいぞ！病院食
おどろき！嚥下食
うれしい！行事食

Instagram

患者さんを早期回復へと導く 専門家チームによる 栄養・摂食嚥下サポート

患者さんの体調を支えているリハビリテーションや緩和ケアという医療をさらに根源的な部分で支える医療、それが栄養サポートチーム（NST）・摂食嚥下サポートチーム（SST）です。NSTは、口から食事をとれない患者さんへの栄養投与方法も含めて、摂取カロリーや栄養素のバランスを決定します。SSTでは、患者さんの飲み込みの状況を判断し、安全に摂取できる食事摂取方法・食事形態を決定します。安全に十分量の栄養をとることが、治療効果や回復力の促進、合併症の予防、呼吸状態の改善など全身状態の向上につながります。

栄養サポートチーム（NST）とは

（ 栄養状態が不良である患者さんに積極的に介入し、栄養療法について改善をおこないます ）

1	2	3	4	5
NST回診時の診察、栄養評価	主治医へ栄養療法についての提言	管理栄養士による栄養嗜好調査、食事形態、補助栄養食品などの提案	病棟薬剤師による服薬指導、点滴内容についての説明	臨床検査技師による栄養評価※

「栄養治療実施計画書兼報告書」を作成し、患者さんとご家族にご提示しています。※体成分分析装置を用いた身体組成測定など。

多職種による 摂食嚥下サポートチーム（SST）

造影検査や内視鏡検査により、飲み込みの状態を評価します。結果は、医師や看護師、言語聴覚士、管理栄養士など多職種で協議し、適切な食事内容と飲み込みを良くする練習方法を決定します。

SPECIALIST VOICE

管理栄養士

私たちは入院中から退院後の生活も見据えた栄養管理をおこなっています。病院食は栄養面と美味しさの両立が課題ですが、患者さんのご希望を聞きながら、味付けにメリハリをつけたり、食材の柔らかさや、見た目まで工夫した「食べる楽しみ」を大切にした献立を考えています。七栗の食事は美味しい、食べられて嬉しい、といったお声が何よりの励みです。日々、栄養学の知識を磨き、最善の栄養管理をめざします。

ご褒美があれば、検査だって〝おでかけ〟になる。 くつろぎ温泉七栗脳ドック

七栗記念病院は、歴史ある榊原温泉地区にあります。古くから七栗の湯とも呼ばれ、清少納言も枕草子の中で「湯は七栗の湯、有馬の湯、玉造の湯」と記した日本三大名泉です。そして当院はリハビリテーション科や緩和ケア・外科の診療の際に使用する医療機器を有した大学病院。そこで榊原地区の温泉施設と連携し、脳の病気の検査をしがてら温泉と食事も楽しめる、医療と観光を組み合わせた「くつろぎ温泉七栗脳ドック」をスタートさせました。
2024年には三重県津市のふるさと納税返礼品に選ばれました。私たちはこれからも医療を通して地域、社会の皆さんの健康維持に貢献する取り組みを進めていきます。

脳ドックとは

脳卒中をはじめ脳の病気は発症すると後遺症が起きたり、生死に関わるものが多く、早期発見・予防が非常に重要となります。本プランの脳ドックでは頭部MRI、頭部MRA、頸部MRA検査※の他、認知症スクリーニング検査（MMSE）、血液検査、心電図検査、身体測定、血圧測定等、総合的に脳の検査をおこないます。検査画像は専門医による読影、診断の後、約2週間程度で郵送します。※MRAとは脳に血液を送る血管を撮影する検査です。

七栗脳ドック2つの安心ポイント

1. 大学病院ならではの各種機器で検査します。
2. 検査画像は、ひさい脳神経外科クリニックの日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医が読影、診断します。

ご予約お問い合わせ

藤田医科大学七栗記念病院 放射線課

TEL 059-252-3036

ご予約受付時間：月～金曜日 9時～17時 ※祝日を除きます。

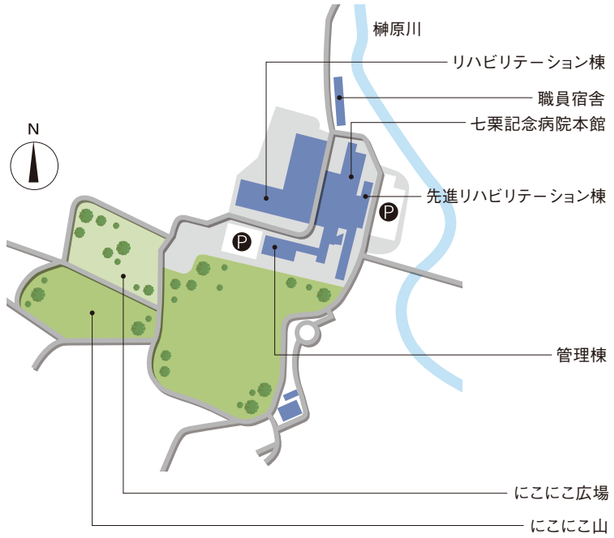
HP

病院概要・アクセス

［診療科目］

○リハビリテーション科
○緩和ケア・外科
○内　科
○歯　科

［病床数］ 218床



本 館

1階病棟	緩和ケア病棟〈20床〉
3階病棟	回復期リハビリテーション病棟〈54床〉
4階病棟	一般病棟(緩和ケア・外科・内科・リハビリテーション科)〈48床〉
5階病棟	回復期リハビリテーション病棟〈41床〉

リハビリテーション棟

2階病棟	回復期リハビリテーション病棟〈55床〉

藤田医科大学 七栗記念病院

HP　YouTube

外来診療受付時間

平　日：午前8時45分～11時30分/午後1時～3時　土曜日：午前8時45分～11時
休診日：日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
外来の一般診療は、来院順におこなわれます。診療受付時間内に外来へお越しください。

セカンドオピニオン外来

当院以外の治療に関する意見を提供する外来です。
曜日・時間限定の予約制となりますので予めご連絡ください。

入院相談外来

月曜日～土曜日 ※事前予約制
ご家族による入院相談が可能です。
主治医からの診療情報提供書、検査・画像データ等、マイナンバーカード（健康保険証）をご持参ください。

アクセスMAP

［公共交通機関］

○名古屋・伊勢方面から
近鉄名古屋線「久居駅」下車、
バス榊原車庫前行（下村経由）に乗車し
「七栗記念病院口」下車、徒歩5分
※バス乗車時間約20分、タクシー乗車時間約15分

○大阪・京都方面から
近鉄大阪線「榊原温泉口駅」下車、
タクシー乗車時間約15分

［乗用車］

○伊勢自動車道
「久居インターチェンジ」より7km 約10分

沿　革

昭和62年　4月	藤田学園保健衛生大学七栗サナトリウム開設
平成　3年　4月	藤田保健衛生大学七栗サナトリウムに名称変更
平成　9年　7月	緩和ケア病棟開設（18床）
平成10年　4月	在宅介護支援センター開設
平成11年 11月	デイケアセンター開設
平成12年 12月	リハビリテーションセンター開設
平成13年　4月	歯科開設
平成13年　5月	回復期リハビリテーション病棟開設（52床）
平成13年　5月	療養病棟開設（40床）
平成15年　7月	療養病棟増床（44床）
平成15年 12月	回復期リハビリテーション病棟増床（2病棟106床）
平成16年　6月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院
平成17年　4月	日本医療機能評価機構付加機能、リハビリテーション機能認定取得
平成18年　6月	日本医療機能評価機構付加機能、緩和ケア機能認定取得
平成21年　7月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院更新
平成22年　4月	日本医療機能評価機構付加機能、リハビリテーション機能認定更新
平成22年 10月	緩和ケア病棟増床（20床）、一般病棟（外科・内科・リハビリテーション科）減床（48床）
平成23年　6月	日本医療機能評価機構付加機能緩和ケア機能認定更新
平成26年　6月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院更新
平成26年　8月	回復期リハビリテーション病棟増床（2階病棟55床）、療養病棟減床（41床）
平成28年　1月	藤田保健衛生大学七栗記念病院に名称変更
平成28年　8月	訪問リハビリテーション事業所開設
平成28年　9月	療養病棟（41床）を回復期リハビリテーション病棟（41床）に変更
平成30年 10月	藤田医科大学七栗記念病院に名称変更
平成31年　6月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院更新
令和　2年　4月	訪問看護事業所 訪問介護事業所 居宅介護支援事業所 開設
令和　2年　4月	日本医療機能評価機構 高度・専門機能:リハビリテーション（回復期）Ver.1.0認定
令和　6年　6月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院更新（主たる機能:リハビリテーション病院/副機能:緩和ケア病院）